



# 例会報告

高山西ロータリークラブ

第 2 6 3 0 地区 岐阜県 濃飛分区 創立 1 9 6 6 年 1 月 1 5 日

- 例会日 毎週金曜日 12:30~13:30
- 例会場 高山市花里町 3-33-3 TEL 34-3988  
大垣共立銀行 高山支店 4 F
- 会長 井辺 一章
- 幹事 堺 和信
- 会報委員長 田中 晶洋



春雨 田中 晶洋

## <会長の時間>

昨日は、朝5時早起きをして、6時出発。三人でクラウンカントリークラブを目指し東海北陸道を走り、8時半過ぎ到着しました。木曜日という平日なのに、よく入っている感じがいたしました。その理由はすぐに判りました。入り口から素晴らしい桜、とにかく満開の桜を一日中楽しんで帰りました。スコアも非常に良かったです。以上、会長の時間でした。



## <本日のプログラム>

## 地区協議会報告

### 黒木 正人

私は、井上委員長の代理として社会奉仕部門に参加させていただきました。それで社会奉仕部門の活動方針の報告をさせていただきます。



社会奉仕小委員会の活動方針の2に「奉仕プロジェクトを積極的に行うクラブ、また消極的なクラブを問わず、当委員会は積極的に卓話に赴き、ロータリーが行う奉仕の意義・喜び・誇り等をクラブ会員に理解し、今後の奉仕活動の糧にしていきたい」とあります。是非卓話の機会を下さいとのことでしたので、次期の社会奉仕・ヘルス委員会の活動計画に河野等社会奉仕小委員会委員長に卓話をお願いしてもいいのかなと思いました。

また活動方針の4に「地区内各クラブが独自に行う有意義な社会奉仕活動があります。地区社会奉仕小委員会はそれらを実施クラブ内だけで埋もれさせることなく、地区内他のクラブへ、また全国のロータリークラブ・ロータリアンに広報し、地区内の各クラブがより質の高い奉仕活動が計画されていくよう、手引きをしたいと考えます」とあります。経営学の言葉で言うとベストプラクティスやベンチマークということですが、やはりいいものは取り入れて実行していかなければならないと感じました。

## <幹事報告>

- ◎ガバナー、地区大会実行委員長より
  - ・地区大会記録誌
- ◎日本ロータリー財団 100 周年記念シンポジウム実行委員長より
  - ・日本ロータリー財団100周年記念シンポジウムビデオディスク送付のご案内
- ◎はぐるま会会長より
  - ・第186回はぐるま会開催のご案内
  - 日 時 6月11日(日) 12:36スタート
  - 場 所 飛騨高山カントリークラブ
  - 表章式及び懇親会 洲さき 19:00
  - 会 費 8,000円
- ◎高山商工会議所青年部会より
  - ・高山商工会議所青年部会30周年記念事業参加の御礼
- ◎高山市文化協会より
  - ・平成29年度通常総会の開催について(ご案内)
  - 日時 5月24日(水) 午後7:00~
  - 場所 高山市民文化会館2-5会議室



## <受贈誌>

美濃加茂RC(会報)、可茂RC(会報)、生駒時計店(2017-2018カタログ)

## <出席報告>

区分	出席	Make-Up	出席者数	会員数	出席率
前々回	30名	5名	35名	39名	89.74%
本日	27名	-	27名	39名	69.23%

### 松川 英明

職業奉仕部門の分科会にて思ったことは、本来職業奉仕とは専門的な事業の水準を上げて、あらゆる職業に携わる中で奉仕の理念を持つということであり、そのロータリーの理念に従って自分自身が事業を行っていくということ、



結局、世の中や人のために奉仕する心を持って倫理的に職業に就きなさいということだと認識していますが、発表を聞いて、特に岐阜ロータリーの内容(4つのテスト像を公園に寄贈)はどちらかというと社会奉仕のような印象を持ちましたが、間違いでしょか?

そういう意味において、出前講座を積極的に取り組むことは良いことであると感じました。地元では本当に人材不足で困っております。特にサービス業は給与水準が低いこともあってなかなか人が集まりません。地域によっては、観光客は予約が入るのですが、スタッフがいなくて予約を断っているケースも。地元で人材を集めるためにも、出前講座で地元での職業とは何ぞやを積極的に話して活性化させるという奉仕が必要であると感じております。

## 例会報告

社会奉仕小委員会で思ったことは、本来そのロータリーが所属する地域に住む人々の生活を高めるための活動であると思われるが、志摩ロータリーの水の発表は、どちらかといえば国際奉仕なのでは？（すみません、分かりません）

国際奉仕ですが、みなさんとても積極的に行っており感心しましたし、大切な活動であると思いました。高山では何が出来るかといえば、海外に出向かなくても出来ることないものかと思いました。

高山市は、住民登録している外国人は552人おります。こういう方々との交流を深めて、何か助けになるような親善活動をした方が、当クラブの存在価値が高まるような気がいたします。いかがでしょうか？

最後に、会員増強についてですが、クラブのためにも積極的に勧誘は行いたいとは思いますが、入会して真のロータリアンになってくれる可能性のある人を見極めるのは難しく、誰でも良いというものではないと感じております。そういう意味において、女性会員の獲得はなお更です。会員増加の多いクラブや女性会員の多いクラブの会員中身を一度見てみたいと思います。

少しネガティブな見方ですが、未来永劫このクラブの存続のためにも興味あるところと思います。

ご清聴ありがとうございました。

### 菅垣 敬慈

4月16日に地区研修・協議会に出席してまいりましたので報告いたします。

その前に、今年の1月末頃だったと記憶していますが、小森さんのスピーチの中に人前で話をする際には「えーっと」ですとか「えー」といった、間投詞を使わないほうが良いというお話がありました。

振り返ってみますと確かに私自身普段乱用していることに気づき反省しています。本日はこの間投詞を発しないように報告をしたと思いますので、どうか皆様、もし私が話の中でこういった類の言葉を無意識にしゃべっておりましたら都度ご指摘くださいますようよろしくお願いいたします。

高山西ロータリークラブからは18名の出席でした。結論を先に申し上げますと帰りに関て食べたウナギがとともうまかったです。前日の祭で夜更かししたため当日の朝食を食べ損ね、お昼のヘルシー弁当の後の夕食のウナギの味は格別でした。

私にとっては昨年のIMと先月の会員増強セミナー、そして今回で3回目の遠征となりましたが、もちろん全て内容が濃く勉強させていただいています。しかし、行き帰りのバス、特に帰りのバスでの先輩諸兄の話も勉強になります。普段の例会とは違ったほろ酔いの雰囲気での話、所々本音がこぼれる話はとても面白い。

ご縁があって今回も合わせて過去2回バスの中で内田さんの隣になったのですが、前回のIMの際は入会して間もない私に、ロータリークラブという所はこういう所だよと心構えをご指導いただき、半年経過した今回は「お前のロータリーでの目標は何だ？」という問いをいただきました。私のロータリークラブでの目標は入会当時から変わっておらず、挾土さんの背中を追いかけ30年皆勤するというのを1つの目標としております。30年後、達成したあかつきにはどうか皆様、少し多めのニコニコをよろしくお願いいたします。

2017-2018年度のRI会長の方針は「making a difference」変

化をもたらす。ロータリーの活動を通じて「地域に変化をもたらす」「クラブに変化をもたらす」「人の人生に変化をもたらす」「自分の人生に変化をもたらす」そして、2630地区、山田ガバナーの方針は「未来を創造しよう」。RI会長の方針の下、変化をし続けるロータリークラブで10年後の自分達のクラブはどうなっているのかを真剣に考え、会員基盤を広げるために積極的に会員増強に努めなければいけないとおっしゃってみえました。

以前劔田ガバナーがロータリークラブというところは受けた恩は必ず返す所だとおっしゃってみえました。その言葉を忘れず、新体制で新年度に臨む高山西ロータリークラブにおいて、あんなに美味いウナギを食べさせてもらった以上、来期に向けて何らかの形で恩返しができるよう頑張っていきたいと思っております。

全体研修の後に分科会に分かれて研修を行ない私は職業奉仕部門分科会に出席し、職業奉仕の実践と題しまして、3つのロータリークラブの職業奉仕の実践例の発表を聞いてきました。

1つ目は岐阜ロータリークラブの実践例で、岐阜公園内に4つのテスト碑を建造し一般社会への普及を目指すという趣旨のものでした。それと岐阜市内の全小学校の1年生に4つのテストの小見向けに解説した物語の塗り絵を毎年4千部配布しているとの事でした。その他岐阜ロータリークラブでは4つのテストの奨学生という経済的に恵まれない優秀な高校生に対して月に2万円の奨学金を支給する取り組みをされており、現在岐阜高校と鶯谷高校で実施しているということでした。後は、会員の事業所の新入社員に対して4つのテストに対する講和、テーブルマナーなどのマナー教室、優良社員の表彰を例会で行う等の取り組みをされているそうです。

2つ目の事例は津ロータリークラブで、年に1、2回の職場訪問を行ない、過去には県警本部や刑務所、血液赤十字センターに訪問し卓話をしていただき勉強をしているそうです。特に刑務所の職員さんは地域の青少年に対してボランティアとして様々な活動をしているのでその表彰もしているとのことでした。この取り組みのもう1つの目的として例会で外にできる事によってマンネリ化を防ぎ、実のある例会にすることも目的としているとおっしゃってみえました。

3つ目の事例は中津川ロータリークラブでしたがこちらのクラブでは職業奉仕活動の1つとして11年間、中学生を対象に出前講座を行なっているとの事でした。

そろそろ時間が近づいてまいりましたので、まともに入りたいと思いますが10月には再び伊賀市において地区大会があるとの事ですので、また美味しいウナギを楽しみに半年過ぎていきたいと思っております。



# 例会報告

## 斎藤 章

全体会議として次年度田山次期ガバナーは、本年度のRotaryのテーマはMAKING A DIFFERENCE「ロータリー：変化をもたらす」で、地区活動方針として「未来を創造しよう」・・・10年後のロータリー・・・についてのべられました。会長賞の指針として、①クラブのサポートと強化、②人道的奉仕の重点化と増加、③ロータリーの公共イメージと認知度の向上、の3つの優先項目をあげ、4項目以上の達成が会長賞に当たるとされています。

分科会として、情報・IT部門の会に参加。情報部門として、丸尾次期アドバイザーは、CLPに触られました。2013年には30クラブであったものが、現在60クラブとなり当会においても、早急に長期運営計画に関わるCLP委員会の立ち上げが必要と感じた。2016年の規定審議会において、クラブ運営に大幅な柔軟性を与えるため定款細則の見直しが必要とされているが、まだ行われていないクラブがある。当会は体対応ずみ。さらなる検討が必要。当地区においても、5000人から3000人に減少。変化に対応を。

IT部門においては、約半数のクラブがホームページを作成中。情報公開をどこまでやるか。マイロータリーのアカウントを獲得して、クラブサポートのなど多方面の応用を拡げて下さい。

カテゴリーで最も高かったクラブの活動手法についてのテーマのもと、パネルディスカッションが行われた。会員増加率最多クラブとして下呂RC、最多新会員入会クラブとして岐阜南RC、最多女性会員クラブとして岐阜エトスRCから報告があった。卓話に来て頂いたゲストに入会のお誘いをするには、結構成功率が高いという点、家族ぐるみの集まりにより、理解が深まり輪が広がり誘いやすいという点、クラブメンバー多数の努力がないと大変であるとの発表が参考になった。

## <ニコニコボックス>

### ●井辺 一章さん

4月16日の地区研修協議会に出席されました皆様お疲れ様でした。

### ●米澤 久二さん、鴻野 幸泰さん

4月16日の地区研修協議会に参加されました18名の皆様大変お疲れ様でした。往復9時間バスに揺られましたが、内容の濃い4時間の研修だったと思います。来期の方針の検討はじめ、今後よろしくをお願いします。

### ●大村 貴之さん、平 義孝さん、田近 毅さん、内田 幸洋さん、斎藤 章さん、垣内 秀文さん、下屋 勝比古さん、田中 晶洋さん、塚本 直人さん、松川 英明さん、萱垣 敬慈さん

16日、伊賀市にて2017-18年度地区研修協議会が行われ、当クラブからは米澤次期会長他18名で参加して来ました。研修内容は後ほど報告させていただきます。帰りには次年度に向けしっかりと精力をつけて参りました。米澤次期会長・鴻野次期幹事ありがとうございました。

### ●折茂 謙一さん

4月13日新入会員オリエンテーションを行いました。高桑さん、萱垣さんご苦労様でした。井辺会長堺幹事、ご指導ありがとうございました。



### ●岡田 賛三さん、田中 正躬さん

春の高山祭りが終わり、高山にも桜が咲き始めました。今週末は花見に出かけてはいかがですか？

### ●向井 公規さん

交換留学生のノエミとメールのやり取りをさせて頂いています。高山に来る事を今より楽しみにしています。カウンセラーという重役を仰せ付かっていますが、少しでも安心して留学生を送れるようサポートできればと思っております。本日他会合もありますので早退させて頂きます。

## 座右の銘

山下 直哉



『憂鬱でなければ、仕事じゃない』

これは見城徹さんの言葉で有名ですが、時間というものは、人を錯覚させるもので長くかければ、それだけ有意義であると思ってしまう。仕事も同じである。どんなに長時間働いても、簡単な仕事ばかりこなしていたのでは、結果は望めない。大事なものは、費やした時間ではない。仕事の「質」である。多くの人が「無理」「不可能」と考えることに身をよじって立ち向かい、克服する姿勢が大切なのだ。それがいつか必ず、目に見える形で大きな実を結ぶ。という意味が込められています。自分は日々の仕事の活力にしているのでこの言葉を選びました。

## 座右の銘

榎坂 純一



『停滞は衰退』

私は二代目の経営者であるため、会社がある程度安定した段階で会社を受け継ぎました。そのため、創業時の苦労や創業当初の資金繰りの苦しさを知りません。また、自身の経営手腕や実績をもとに社長になったわけではないため、本当に自分に会社を経営能力があるのかいつも不安を抱えています。

そのような状態の中で私が思う私の役割は、会社を存続させ成長させていくことだと考えております。経験がないことを真摯に認め、自分自身の役割を果たすことによって一流の経営者を目指そうと思っております。

そう考える私が会社を存続し続けるために最も大切だと思っていることは「環境にあわせて変化し続けること」ということです。昨年と同じことをしてはいけない、もっと言うと昨日と同じことをしてはいけないと思っています。毎日少しでもいい、よくも悪くも変化し続け、結果を見てやり方を微調整していくことこそが私が経営者としてすべきことだと考えております。その考えを常に持ち続けるとともに自戒の意味も込めた言葉が、私の座右の銘である「停滞は衰退」です。

停滞を恐れ、常に変化し続けていくことを自身の経営課題と位置づけ、日々努力し続けようと考えております。